

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	平常展示事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目	1	10	5	6	11	10	3,000
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等		・春草・郷土作家調査研究事業				
		事業期間	1	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・飯田下伊那広域圏の地域住民	広域圏住民数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			177000	177000		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	・平常展示を鑑賞する観覧者をふやす。	平常展示の観覧者数(延べ人数)	18目標	21000	最終目標	
			18実績	21447	19目標	21500
		23目標		23実績		↑ 最終目標達成年度
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		↑ 最終目標達成年度
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	美術部門が所蔵する作品や関連資料を調査研究に基づきながら、展示し市民に公開する。	展示構成や作品解説に工夫をこらし、来館者の鑑賞能力がより深化するような平常展示を開催する。 ・綿半野原総業株式会社より寄贈された作品の展示。 ・その他、所蔵作品による展示を開催。 ・18年度の実績 ・収蔵品目録、展示リーフレットなどの制作。 ・菱田春草作品をなるべく長期間、まとめて展示できるように工夫する。	美術部門所蔵作品の公開日数	199日
		・菱田春草作品をはじめ、井村・岩崎新太郎コレクションなど当館に所蔵されている日本画作品の展示。 ・綿半野原総業株式会社より寄贈された作品の展示。 ・その他、所蔵作品による展示を開催。 ・19年度計画 ・収蔵品目録、展示リーフレットなどの制作。 ・菱田春草作品をなるべく長期間、まとめて展示できるように工夫する。	美術部門所蔵作品の公開日数	200日

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	3,000	3,000
	事業費計(A)	3,000	3,000
人件費	正規職員所要時間	18年度 380	19年度 380
	臨時職員等所要時間	120	120
	人件費計(B)	1,488	1,488
	トータルコストA+B	4,488	4,488

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・地域を知る ・地域を誇りに思う	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(述べ人数)	現状値	18016	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	19800
	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民の割合	現状値	75.3	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	85	

この事業を開始したきっかけ 平成元年度開館時に、菱田春草や郷土作家などの作品を紹介する本館美術部門の基本的な展示事業として開始。	事業を取り巻く状況の変化 開館以来、菊慈童・春秋をはじめとする菱田春草作品の購入、郷土作家作品などの寄贈・購入・寄託があり、また大型コレクションの寄贈が相次いでおり、所蔵作品数も順調に増加している。これらをいかに有効に活用しつつ、一方で保存してゆくかが重要な問題となっている。	事業に対する市民や議会の意見 「菱田春草の絵を1点でも飾っておいてほしい」(H17.10.27館内アンケート・静岡県70代男性、特別展の為春草展示なし)、「菱田春草の絵の数が少なかったのでもっとがっかり…」(H17.9.11館内アンケート・愛知県の40代女性、平常展で春草作品を6点展示)など、遠方から来館されて菱田春草の作品展示が少ないことに対して残念に思われる意見が多い。
---	---	---

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 平常展示によって、年間を通じて市民に地域ゆかりの芸術を知ってもらうことができる。	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 所蔵品の調査研究を推し進めることにより、平常展示に陳列できる作品数や平常展示の回数を増加できる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 地域ゆかりの芸術を、地域の人々に知ってもらう事業であるため。		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 市所蔵の美術品を公開することができなくなり、地域ゆかりの芸術を知ってもらう機会が減少する。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 地域ゆかりの芸術を、地域の人々に知ってもらう事業であるため。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)。 (評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) 市所蔵品によって、地域に関する芸術作品を紹介している展示施設は他に無い。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 市が所蔵する美術品を公開する事業であるため。		効率的に、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 現在、限られた経費と学芸員によっておこなっており、経費削減は展示会の質に低下につながってしまう。また収蔵作品への負荷が高まる可能性がある。
		公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者は平常展示の観覧者。平常展示は一般310円、高校生200円、小中学生100円の観覧料となっている。

## 【Plan】改革改善

<b>今後の事業の方向性</b> <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	<b>実施年度</b> 〃	<b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b> 井村コレクションのご寄贈者井村英治氏が平成18年度に逝去され、平常陳列の中でご寄贈のご厚志を改めて紹介できる陳列をしたいと考えている。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	限られた予算とスケジュールの中で、よりご寄贈いただいた方のご厚志を尊重できる展示方法を検討していきたい。	

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	